

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800014		
法人名	社会福祉法人こもれび福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの郷 桜ホーム		
所在地	島根県益田市横田町710		
自己評価作成日	平成30年12月6日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食の提供。手作りで季節を取り入れたメニュー作り、栄養バランスも考えながら健康を維持している。また、皆様からの希望も取り入れ楽しみながらの食事。職員は出来る限り入所者の方と一緒にゆっくりと寄り添い過ごす支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人や家族、行政との関係を大事にし、事業所の取り組みを理解してもらいながら協力関係を築き利用者の生活を支えている。去年、洪水避難準備段階で指定の避難場所ではなく、利用者にとって安全に安心して過ごせる場所に急遽、一泊避難した。受け入れ先の協力で感謝しつつ、全職員が力を合わせ対応するという体験をした。重度の利用者も多く起床時間、食事時間、入浴時間など利用者のペースを大切に個々に合わせた支援をして本人本位の暮らしにつながっている。職員の得意なことを活かしたり、体調や子育てなどに配慮し互いに協力し合い、働きやすい職場作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の中で、何を大切にして支援をするのか、話し合いをしている。また、理念に基づいて実践できているか、振り返る時間を設け、よりよい支援に繋がるよう努めている。	会議で理念の理解を深め、利用者が笑顔で暮らせるように、日々職員は利用者の立場になってケアを振り返り話し合いを重ね実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回茶話会として地域の方を招いて交流をしている。年1回のさんさん祭りには、年齢層も幅広く参加して頂いている。特に祭りは利用者様に良い刺激になっていると感じている。	茶話会やさんさん祭りに参加してもらい利用者との交流の機会を作っている。保育園児が散歩の途中に立ち寄り歌を聞かせてくれたり、小学校の運動会の見学や、ボランティアとの交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回発行、認知症の方々に対する理解や周知に繋がるよう入居者の生活の様子を掲載した「こもれび新聞」を地域回覧にて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、ご家族の代表者、自治会の方、協力医など幅広い分野から出席頂いて日々の生活の様子、施設の取組、ひやりはつをご報告し、様々な視点からの客観的なご意見を頂いている。	取り組みや実情を報告し、意見や助言をサービスに活かしている。災害時に安心して過ごせる避難場所について参加者から市に要望が出るなど、委員の理解と協力を得て取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に必ず出席して頂き、施設の現状や取組、ひやりはつと事故等の報告を行っている。	主に運営推進会議で実情を伝えている。洪水時の「避難確保計画」のマニュアルの作成や提出などについて話し合い、協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束推進会議を3ヶ月に1度行い、日々の支援で拘束に類似した行為ではないか、何故そうしているのか議論し、職員会議で全体周知を行い、身体拘束をしないケアを徹底している。	具体的な行為の理解や、「利用者にとってどうか」を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒のリスクのある利用者については家族と話し合いを重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の研修に参加をしたり、施設内研修にて学ぶ機会を持っている。常に自分だったらどうだろうという問いかけをしながら、虐待とならないよう職員間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修に参加。実際に制度を利用して入居者様を支援することで制度に対する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り、書類に添って説明を行っている。質問や疑問も尋ねながらご理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開き、意見交換を行っている。また、ご家族との面談時にも意見を頂きながら運営に反映させている。	面会時や家族会で日頃の様子を伝え、意見や要望を聞いている。「こもれび新聞の字が小さい」との意見を聞き用紙を大きくして対応するなど、意見を改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から聞き取った意見を代表者に伝え相談している。また不定期に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	職員の得意なことや、体調、家庭環境を考慮して働きやすい勤務にするなど配慮している。面談を実施し意見や要望を聞く機会をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務管理は労務士の助言を得ながらゆとりある勤務形態を心掛けている。年3回の賞与では努力や実績を評価しメリハリをつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が個々の力量を把握した上で研修等への参加の促しを行っている。研修後は、介護等で報告を行い、職場全体でスキルアップとなるよう情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、グループホーム交流会に参加し、交流や情報交換を行うことでサービスの質の向上となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の情報を基に、経過観察を行い、ご本人の困っておられる事を把握し、不安の軽減となるよう、環境や関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、しっかりと時間を取り、思いを確認している。面会時には、ご家族の思いに耳を傾け、困っている事、不安なことを把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の情報を基に、仮のケアプランを作成。その後、ご本人の様子をしっかりと把握した上で支援の見極めをし、本プランを作成し支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること出来ない事を見極め、日常生活の中に、役割として取り入れ、自然な生活が送れる様支援している。そういった中でより良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の付き添いをお願いしたり、外泊や外出の機会も作っていただき、ご家族様との繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出掛ける事は難しくなっているが、ご友人の方等に面会に来て頂き関係が継続できるよう声をかけている。	日頃から元同僚や姉妹、甥、孫、家族など面会が多く関係が継続できるように支援している。昔の遊びをしたり、縫い物や畑仕事などこれまでの生活を日常生活に取り入れたりと話題にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しみや日常生活の役割を通じて利用者様同士、関わりが持てる様支援を行っている。関わる事が困難な方には職員が橋渡しをする事で関係を保ち、孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も新聞回覧やホームページで情報が閲覧できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いを伝えてくださる方は少なく、日頃より会話や表情から思いを読み取りながら、その人らしい暮らしとなるよう支援を行っている。	言葉や表情の変化など情報を書き込み、一人ひとりのやりたいこと、好きなことの把握に努めその人らしく過ごせるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話で体験談やご家族の話を聞き出し、ご家族様からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に作業したり、コミュニケーションをとる中で現状の把握に努めている。職員間でも情報を共有し、今ある力が発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議で、プランについてのモニタリングや新しい課題について議論している。ご家族様、ご本人の意向を伺った上で現状に即したプラン作成となるよう努めている。	趣味、嗜好や「コーヒーを飲みに行きたい」など利用者や家族の意向を確認して介護計画を作成している。全職員が表情や言葉など細かにモニタリングをし、本人がより良く暮らせるように反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援内容を介護記録に記入している。また、変化や気づき等も記入している。職員間では連絡ノートにも記入し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに添えるよう、幅広く柔軟な対応ができる計画作成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児の訪問や、小学校、保育園の運動会見学、ボランティアでオカリナや琴の演奏、手品など来設を楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、家族の思いを大切にされている。往診時には、生活の様子、体調を伝えている。休日、夜間の急変時にも相談ができる関係であり、状況によっては専門医の紹介をして頂いている。	利用者や家族の納得したかかりつけ医となっている。定期的な訪問診療があり連携して適切な医療が受けられるように支援している。夜間や休日、急変時や看取り支援も相談ができる関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、施設勤務の看護職員に変化や気づきを相談している。往診の際に同席し、医療との橋渡しを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ情報提供を行うと共に早期に退院ができるような流れになるよう意向を伝えている。退院が難しい場合は、相談員とその後の対応を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際には終末期を迎えた時の対応の説明をしている。重度化した場合には医師との連携を密に行い、ご家族への説明を行っている。状況によっては他施設への申し込みをお願いする場面がある。早い段階で、ご家族の意向を確認しながら想いに添った終末期を迎えられるようご家族、医師とカンファレンスを行い対応している。	利用者、家族に事業所でできることを伝え、状態に合わせ家族、医師、関係者と話し合いを重ね意向の確認を行い支援に取り組んでいる。全職員が頻繁に声掛けに訪室したり、状況や情報の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作訓練を受けていたので急変時に落ち着いて対応ができたという実績がある。今後も定期的に訓練を受けていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定と、自然災害の避難訓練を行っている。実際に避難(水害)を行った際にはほとんどの職員が連携して迅速な対応が出来た。今後も継続していく。また、運営推進会議を通じて自治会の方にも話し合いに参加して頂き意見を頂いている。	夜間想定避難訓練や自然災害想定避難訓練をしている。防災カーテンに交換したり洪水時のマニュアルを作成した。去年、洪水避難準備段階で地域の協力を得て一泊避難した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやトイレ誘導など、お一人お一人の羞恥心に配慮して対応している。難聴の方にはジェスチャーやメモ書きを使って対応している。	生活歴の把握や、利用者のしたいこと、できることを尊重し思いに沿った対応をしている。起床時間や食事時間など利用者の気持ちやペースを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定して頂ける様心掛けています。自己決定や希望を表せない方には選択しやすい方法を取り入れたり、日頃の様子や会話から読み取る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムに合わせ、どの様に過ごしたいのか自己決定して頂き、その思いに沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、衣服はご自分で選んで頂いている。介助が必要な方には、ご本人の好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき、芽とり、米研ぎ、盛り付け、台拭き、下膳、食器洗い、出来ることを笑顔で行えるよう支援している。献立には皆さまの希望のメニュー、季節のメニューを取り入れている。	「食」を大切に捉え、畑で収穫した野菜の下ごしらえや盛り付けなど、一人ひとりの力を活かし職員と一緒にやっている。職員も一緒に食事をし、食材など話題にして和やかな食事場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた食事形態にしている。水分摂取については嚥下状態に合わせてトロミ剤の使用、ストローの使用を行っている。また、水分摂取表を用いて水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。うがいが困難な方にはスポンジブラシを用いて、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し、トイレでの排泄に繋がるよう心掛けている。現状を維持出来るよう努めている。	一人ひとりの排泄の間隔を把握し声がけや見守りをし支援している。扉を閉められない人にはさりげなく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の記録以外に排便チェック表を用いてチェックを行っている。状況に応じて水分摂取を勧めたり、軽運動を取り入れ便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助の度合いが高く、2日に一度の入浴が現状です。できるだけご希望に沿ったタイミングで入浴ができるよう努めている。	2日に1回の入浴だが、毎日希望する人や時間など利用者のその時の気持ちを尊重しながら柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーやリクライニング椅子でゆっくりされたり、居室でテレビを観ながら休まれるなど、自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量は職員全員で共通理解し、服薬支援を行っています。服薬によって変化が現れた時には医師に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、皮むき、芽とり、生花、個々の特技に合わせて行って頂いている。また、その役割が負担とならず楽しんで行えるよう配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と外出が行える方については、一緒に外出する機会を作って頂いている。天気の良い日にはドライブに出掛け、ご自宅の様子を車から見ていただくような支援を行っている。	天気に合わせドライブや買い物、散歩、畑仕事をしたり、庭の木々を見て風や季節を感じられるよう外気にふれることを大切に支援している。家族と外出や外泊を楽しんでいる人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金品はお預かりしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご希望があればかけていますが、難聴の方も多く、電話での会話は難しいのが現状。毎月、写真入りのハガキを用意し、ご家族宛に今の思いを書いて頂くような取り組みを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに皆様と一緒にディスプレイ作りを行い、ホールに展示し、季節を感じられる取組を行っている。皆様が集うホールにはソファを設置し、リラックスできる空間を作っている。	花や折り紙や落ち葉の作品などで季節感のある飾りつけをしている。廊下には家族が絵画を持参し時季に合わせて交換している。ソファの設置や、ホールでゴミ袋を作ったり縫い物をする人もあり居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチを設置しており、一人で息抜きをされたり、二、三人で腰かけておしゃべりをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や思い出の写真などを設置し、落ち着ける場所となるよう努めている。	家具、写真、手作り作品、ハンガーラックなど馴染みの物を置き、利用者や家族の思いで自由に持ちこんでもらい、その人に合わせた居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の段差等、最小限のつくりとなっており、個々の今を把握しながら安全を確保し、できることはご本人に行っていただけよう支援している。		